

2022年度決算特別委員会

# 歴史公園「茶づな」のミュージアム 入館者数は見込みの12%

2022年度の宇治市政の執行結果を審議する決算特別委員会が、10月25日から11月8日に行われました。

## 歴史公園は「定住促進」 に役立ったのか

歴史公園は、事業規模が約88億円に膨らみ、公共施設統廃合や公共料金の値上げの一方で、巨大な事業をするのはおかしい等という批判が続出しました。しかし、市は、「本市の成長戦略の大きな柱」「宇治への定住促進につながるもの」と建設を強行しました。決算委員会では、歴史公園事業の成果について厳しい意見が出ました。

ミュージアムの入館者数	
入館者見込	115,000人
実際の入館者数	14,040人

昨年度の宇治市の観光入れ込み客数は、コロナ禍の影響などでピーク時の約41%に減少しましたが、歴史公園のミュージアムの入館者数は、見込み数のわずか12%にすぎませんでした。市はコロナの影響といいますが、それだけでは説明が付きません。

定住促進どころか、市財政に重い財政負担となる事態です。党議員は、史跡整備事業だったのを民間事業者の儲けの対象となるPFI事業に変容させたことが間違いだったのではないかと追及しました。

## 中学校給食 実施表明から9年後

宇治市の中学校給食は、実施を求める市民運動と議会での追求をうけて、2017年に実施すると表明されました。ところがその実施時期は、当初から「2023年度」と6年もかかるというものでした。さらに、センター方式に固執したために用地取得に手間取り、「2026年度」実施へとずれ込みました。

給食センターの用地に予定しているのは、旧宇治少年院跡地ですが、所有する法務省との間の手続きが進展していない模様で、市教委は「国の手続きを注視している」という状況です。

党議員は、調理室の設計、アレルギー対応、配送計画、災害備蓄、献立の種類などについてたずねましたが、市は「示せるものはない」と答弁。いまだに基本構想だけしかなく、他党の議員からも「これで間に合うのか」という危惧の声がでました。

さらに、センターは中学生のためのもので、教育委員会は「(親子方式とは違って)中学生の成長に応じた献立ができる」と強調していたが、小学生の給食も一緒にするというのは無責任ではないかと追及しました。

日本共産党  
宇治市会議員団

議員団だより 2022年11月13日号

宇治市宇治琵琶33 宇治市役所内

TEL: 0774-22-3141(内線 2817)

FAX: 0774-24-7884

共産党議員団へのご意見・ご相談

